

(第2号様式)

美特第1978号
平成36年3月5日

沖縄県教育委員会教育長 殿

沖縄県立美咲特別支援学校
校長 粟國静夫
(公印省略)

令和5年度県立学校学校評議員の運営状況について(報告)

令和5年12月12日付け教県第1744号により依頼のありましたみだしについて、下記のとおり報告します。

記

1 日時、場所、出席状況等

回数	日時	場所	出席状況
第1回	令和5年7月13日	美咲特別支援学校 視聴覚室	3名
第2回	令和5年11月27日	美咲特別支援学校 視聴覚室	5名
第3回	令和6年2月22日	美咲特別支援学校 視聴覚室	5名

2 学校評議員に求めた事項

- ①学校運営について
- ②過密化解消の取組について(教室不足、児童生徒の増加、校内視察・授業見学、交通誘導について)
- ③各学部・分教室の取組について
- ④学校評価について

3 学校評議員の意見

- ①インクルーシブ教育を進める上でも保護者や地域へ本校の取組をもっと発信するとよい。
- ②教科指導で身に付けた力を生活に生かすことがキャリア教育につながる。地域で育つというイメージは何か。日頃から生活につながる指導をしていくことを大切にほしい。
- ③キャリア教育について、挨拶、返事、相談できる力等の基礎的な力が備わっているかが大切。中学部の実習においても、就労に向けた評価票を活用していくとよい。幼小中高分教室の進路指導の連携を強化していくことに期待する。
- ④学校評価の「人権意識」について。児童生徒へ人権感覚を教えてほしい。人権意識を評価するのは難しい。意識とは自分に返るものであるから、評価の文言を検討するとよい。また、保護者が子どもに対してどう捉えているのか保護者自身の評価をしてほしい。小学部段階から人権感覚を養うことは大切である。
- ⑤過密化解消に向けて、本庁への働きかけもはっきりしていくとよい。
- ⑥先生方の連携も働き方改革のひとつとなる。

4 学校運営に反映した事項

- ①登下校時における交通誘導の工夫(保健体育課への働きかけ、保護者への協力依頼、校内での工夫)
- ②教科指導の充実に向けた校内研修及び拡大教科会の充実
- ③全学部保護者を対象とした進路講話、進路学習会の開催
- ④生徒指導部の「みさきデー」の設定による児童生徒の挨拶、返事、場を清める等の意識づけ
- ⑤次年度教育課程編成に向けた行事の持ち方の見直しによる保護者の参観の工夫

5 課題その他

- ①学校評価項目の見直し(人権意識、人権感覚について)及び職員向けの研修の充実
- ②授業参観の持ち方(性教育の取組について情報発信するために参観する形にするか、授業録画した内容を見せよう等の検討)
- ③幼児児童生徒自らがより良い環境作りに向けた「こうしてほしい」と伝えられる力(セルフアドボカシー)や自尊感情の育成